

はじめに

めぐろパーシモンホールや目黒区美術館、社会教育館などの区立施設をはじめ、地域のあらゆるところで、実にたくさんの方々が芸術文化に親しまれています。目黒区の芸術文化は、25万区民の方々に支えられているのです。

めぐろ芸術文化振興プランは、このような区民の皆様の活動と地域の芸術文化がさらに豊かなものになるには、行政は何を行っていくのかということをはっきりとすることを目的に策定しました。

そのキーワードとなるのが「文化縁」です。この「文化縁」という言葉は、プランの策定に先立ち設置されました目黒区芸術文化振興計画策定懇話会での“芸術文化の振興には芸術文化を通じた人のつながりが大切である”という検討の中で生まれました。

「文化縁」=芸術文化を通じた人のつながりは、地域で芸術文化活動をされている方々の姿そのものであります。また、それは区のまちづくりの方向にもつながるものであります。このことから、プランの策定にあたりまして、この「文化縁」を芸術文化振興の基本的な考え方として最大に尊重いたしました。

区では、平成18年度からこのプランをスタートさせていきますが、ここでひとつお願いがございます。それは、ぜひ、区民の皆様の「文化縁」に私ども行政も参加させていただきたいということです。

“芸術文化の振興は行政だけでできるものでなければ、行政だけで行うべきものでもなく、区民の皆様の自主的な活動とその活動を行政が支援し、連携・協力することにより実現されていきます”と、目黒区芸術文化振興計画策定懇話会の後藤座長は、報告書に書かれました。区といたしましては、この言葉の通り、多くの方々とともに目黒という地域の芸術文化をより豊かなものにしていきたいと考えております。ぜひ皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、目黒区芸術文化振興計画策定懇話会では、実に多様な視点から本区の芸術文化のあり方についてご検討をいただきました。また、めぐろパーシモンホールや目黒区美術館の利用者の皆様にはアンケートにご協力いただきました。さらに、区民の皆様からは広報紙やホームページでの案などの公表に対し貴重なご意見・ご提案を多数いただきました。改めてお礼を申し上げます。

区では、いただきましたご意見等につきまして、可能な限り反映するよう努めましたが、十分に反映することができなかったものもあるかと思っております。それらにつきましては、プランを実現していく上での貴重なご提言とさせていただきたいと思っております。

平成17年11月

目黒区長 青木英二